(二) 調査報告書

調査の進捗状況、次年度計画などを年度ごとに担当者が主事へ報告し、主事はとりまとめて掛長（校長）へ報告した。関係報告書類は明治四十年度から昭和二年度まで（大正四年度を欠く）が残されている。紙面の都合により報告月日、報告者名、報告提出先は各報告記事の最後に〔　〕でまとめた。

明治四十年度

邦樂調査掛調査報告

邦樂調査ハ明治四十年十月ヨリ著手シ其調査樂曲ノ種類ハ平曲、一中、富本、清元、長唄ノ五種ニシテ凡毎週一回出勤調査セシム本年三月末日〔二〕於ケル調査成績及蓄音機吹込ハ別紙所載ノ通リニ付右報告致候也

邦樂調査掛調査曲目

明治四十年十月ヨリ
仝四十一年三月マテ

平曲

奈須與一（ママ）
素語　全部
位語　義經が願背くべからず迄

一中節

都太夫
辰巳の四季　　絃　全部
猩々　　絃　全部
松羽衣　　絃　全部

菅野
松襲　　絃　全部
　　歌　小松曳まで

富本
長生　　絃、歌　全部
鞍馬獅子　　絃　より添へまで

清元
北州千年壽　　絃　全部
深山櫻及兼樹振　　絃　全部
青海波　追分　　絃　歌
梅の春　　絃　全部
　　歌　春霞まで

長唄（めりやす）
明の鐘　　絃、歌、全部
壽　　仝
五大力　　仝
黒髪　　仝
猫の妻　　仝
高尾　　仝
びんづる　　絃　全部　歌　わしゃ物思ひ迄
四ツの袖　　絃　全部
きせう　　仝

寶船　仝
八重霞　仝
小夜千鳥　絃　全部

明治四十一年三月三十一日

蓄音器蠟管吹込

菅野
松襲　全部
平曲
奈須與一（ママ）　全部
清元
保名　全部　二通り
北州　仝
梅の春　全部
淺間　はかなくもまで
富本
長生　全部
淺間　淺間山まで
長唄
明のかね　全部　二通り
ねこのつま　全部
高尾　仝
ことぶき　仝
びんづる　仝

五大力　仝
黑髮　仝
小唄水さし　仝
重太夫（ママ）
花扇　全部
きぬた　手事

〔明治四十一年四月三十日、主事富尾木知佳より校長湯原元一へ提出。〔手書き〕〕

（『邦樂調査掛關係書類　上』）

明治四十年度～大正二年度

「調査濟外題目錄」

平曲

曲名	稿	年度
琵琶ノ彈法（口說、初重撥、カラス撥、折聲ヨリ口說ニ移ルトキ、歌、指聲、下歌、曲歌、三重、三重下リ、中音撥、一ノ聲、二ノ聲、中ユリ、峰聲、拾ツキスヱ、強ノ聲、）	一	四〇、
奈須野（ママ）與一	一	四〇、四一、
木曾最期	一	四〇、四二、
内侍所都入	一	四〇、四三、
訪月八坂流	一	四三、
都遷	一	四四、

能樂

曲名	稿	年度
西王母　附　來序、一聲、下リ端、中ノ舞、	二	四一、四二、
三井寺　附　次第、本越一聲、カケリ、	二	四二、四三、
羽衣　附　序ノ舞、ハノ舞、	二	四二、四三、
船辨慶　附　イロヘ、中ノ舞、ハタラキ、	二	四三、四四、
融　附　片越一聲、出端、早舞、	二	四四、
枕慈童　附　樂、	二	四四、
蘆刈　附　男舞、	二	四四、四五、
花月　附　鞨鼓、	二	四五、
田村	二	四五、
東北	二	大正一、二、
黒塚	二	二、

河東節

曲名	稿	年度
住吉おどり（外記節）　絃、	一	四一、
神樂獅子　上下　絃、	一	四二、
小鍜冶名劍の巻（半太夫節）　絃、哥	一	四三、四四、
傀儡師（半太夫節 外記節）　絃、哥	一	四三、四五、
助六廓家櫻　絃、哥	一	四四、
鎗おどり　絃、哥	一	四五、
ぬれ扇　絃、哥	一	四五、大正二、

河東節根元集 絃哥 調査　年度：四十一年度ヨリ四十三年度ニ至ル　稿：第一稿

曲名							
半レイセイ	11	ユリツ(ヅ)ケ ヒツトリ	12	本三重	13	ウレイユリ	14
上方ウタ ナゲフシ	27	ウキシンフシ（ママ）	31	カツサキフシ	34	ウタカヽリ	381
コムロフシ	54	カヽル	47	カサイフシ	48	カサイフシ	49
ユリカン	45	中ヨセル	55	上コトバ	56	イロクドキ	60
レイセイカヽリ	67	上コトバ	69	本フシ	70	ヲクリ	71
ヘイケカヽリ	70	ヘイケカヽリ	72	ヘイケカヽリ	93	文七フシ	94
ナカシ	99	ヲトシ	100	七ツユリ	101	ナカシ	102
フネウタ	108	イロユリ	109	文七フシ	115	ヒロイムスビ	116
シハカキ	125	ハスム	126	半ユリヤツシ	127	桐山	128
ヒセンフシ	133	サイスメ（ママ）	134	三中フシハシル	137	三中ウレイ	138
フシツナギ	130	マイカヽリ	105	カヽル	89	カハリレイセイ	159
イロクドキ	141	ハシル	121	カイトウ	98	上ムスビ	179
中ムスビ	20	ミツユリ	131	上方フシ	106	チハヤフシ	188
イロムスビ	39	コサイフシ	147	シハカキ	124	サイモン	200
マイカヽリ	50	ハヤムスビ	21	本三重	132	シキブシ	157
カヽル	61	ハツミユリ	41	カトセツキヤウ	148	ヒロヒナケフシ	176
ヲントカヽリ	72	クドキ	51	下ハシル	22	スエル	187
カヽル	95	アミトカヽリ	62	ツナキ	43	カハリ三重	197
シヲリフシ	103	ユリカヘス	73	イロクドキ	52	ハル本フシ	25
ヤツシヒツトリ	117	ヲロシ	96	イロ地	65	ヲントフシ	44

上コトバ 129
ハシル 104
ヒツトリ 80
上クトキ 53
ウレイユル 139
ハヤハシル 120
ハルカイトウ 97
カヽル 66
コウワカ 163
カヽル 169
ケキヒツトリ 182
ヒセンナケフシ 176
イリ地 193
ウレイユリ 196
大ナカシ 203
トリヲイ 207
平家 161
ツナギ地 167
ケキフシ 181
サハリ 184
シヲリカヽリ 192
カハリユリ 195
コトウタ 201
トリヲイ 206
レイセイカヽリ 160
シヲリカヽリ 164
カハリレイセイ 180
サハリ 183
カタハトメ（ママ） 191
キン地 194
クミウタ 201
トサフシ 205

都一中節

曲名		稿	年度
辰巳の四季	絃、哥	一	四〇、四三、
猩々	仝	一	四〇、四三、
松の羽衣	仝	一	四一、
夕霞淺間嶽	仝	一	四一、四三、
丹波與作夢路駒	絃	一	四二、
傾城淺間嶽	絃、哥	一	四二、四三、
賤機帶	仝	一	四二、四四、
皐月前道行	仝	一	四二、四四、
梅川忠兵衛道行三度笠	仝	一	四二、四四、
泰平船盡し（前彈）	仝	一	四二、
お夏笠物狂	絃	一	四二、
源平妹背鷄合	仝	一	四二、
吉原八景	絃、哥	一	四四、
名寄歳旦園生の松	仝	一	四五、
賴光山入	仝	一	四五、
仝　衣洗	仝	一	四五、
仝　童子對面之段	仝	一	大正一、二、
天の網島	仝	一	二、

菅野一中節

曲名		稿	年度
松襲	絃、哥	一	四〇、四一、
萬屋助六	絃	一	四一、
高砂松の段	絃、哥	一	四一、四二、
松盡し	仝	一	四一、四二、
神樂高砂	仝	一	四一、四二、
稽首國道行	仝	一	四二、四三、
自然居士	仝	一	四二、四三、

業平河内通	仝	一	四二、
泰平舩盡し	仝	一	四二、四三、
江戸紫	仝	一	四二、四三、
墨繪の嶋臺	絃、哥	一	四四、
鵜飼石和川	仝	一	四四、
常盤御前道行	仝	一	四四、
妹が宿	仝	一	四四、四五、
冲中川	仝	一	四五、
三勝鶏卵酒	仝	一	四五、
金村屋おさん 二重帯名護屋結 疊屋伊八	仝	一	大正二

常磐津節

曲名		稿	年度
子寶三番叟	絃、哥	一	四二、四三、
積戀雪關扉	絃、哥	一	四二、四三、
忍夜孝事寄（まさかど）	絃、哥	一	四三、
鴛鴦容姿正夢（おしどり）	絃、哥	一	四三、
老松 前彈	絃、	一	四三、
四天王大江山入（山姥）	絃、哥	一	四四、
戻籠色相肩	絃、哥	一	四五、
傳授の雲龍	仝	一	大正一、二、

富本節

曲名		稿	年度
年朝嘉例壽（長生）	絃、哥	一	四一、
其俤淺間嶽（あさま）	仝	一	四一、四三、
高尾懺悔	仝	一	四一、四三、
長生のふき	絃、	一	四二、
神樂獅子	仝	一	四二、
幾菊蝶初音道行（忠信）	絃、哥	一	四二、四三、
御代榮益穂富種（豐の前）	仝	一	四二、四四、
忠信物語	仝	一	四三、
新曲高尾懺悔	仝	一	四三、
夫婦酒替らぬ仲中（鞍馬獅子）	仝	一	四四、
那須野	仝	一	四五、
家櫻歳齡三番叟	絃、哥	一	四五、
草枕露玉川	仝	一	四五、
惠方土産	仝	一	四五、大正二、
全盛操花車（木遣）	仝	（未記入）	二、
拙筆力七ッ伊呂波（乙姫）	仝	（未記入）	二、

清元節

曲名		稿	年度
青海波ノ追分一部	絃、哥	二	四〇、四一、
北州千歳壽	絃、哥	二	四〇、四二、
深山櫻及兼樹振（保名）	絃、哥	二	四〇、四二、
色彩間苅豆（かさね）	絃、	二	四一、

初霞淺間嶽	絃、哥	二	四一、四三、
佃　合方	絃、	二	四一、
玉兎月影勝（玉うさぎ）	絃、哥	二	四一、四三、
大和い手向五字（子守）	絃、哥	二	四一、四三、
梅の春	絃、哥	二 三	四一、四三、 四五、大正二、
御名殘押繪交張（とばゑ）	絃、哥	二	四一、四四、
老　松	絃、哥	二	四二、
四季三葉艸	絃、哥	二	四二、四四、
再春松種蒔（種蒔三番）	絃、哥	二	四二、四五、
榮能春延壽（長生）	絃、哥	二	四三、四四、
名寄の壽	絃、哥	二	四四、

長　唄

曲　名		稿	年　度
四ツの袖	絃、哥	一	四〇、四一、
きせう	仝	一	四〇、四一、
寶ふね	仝	一	四〇、四一、
八重かすみ	仝	一	四〇、四一、
明の鐘	仝	一	四〇、四一、
壽	仝	一	四〇、四一、
高　尾	仝	一	四〇、四一、
五大力	仝	一	四〇、四一、

長唄劇場合方（四十二年度ヨリ大正二年度ニ至ル）

曲　名		稿	年　度
黑かみ	仝	一	四〇、四一、
猫の妻	仝	一	四〇、四一、
賓頭盧	絃、哥	一	四〇、四一、
小夜千鳥	仝	一	四一、
ゆかりの月	仝	一	四一、
松のみどり	仝	一	四一、
三勝道行	仝	一	四一、
はねのかむろ	仝	一	四一、
京鹿子娘道成寺	仝	一	四一、四四、
初子の日	仝	一	四二、
はつしぐれ	仝	一	四二、
老　松	絃、	一	四二、
櫻がり	絃、哥	一	四二、
七福神	仝	一	四二、
英執着獅子	絃、	一	四二、
新むらさき	絃、哥	一	四二、
菊の露	絃、哥	一	四二、
菊壽の草摺	絃	一	四二、
勸進帳及延年舞、上てうし	絃、哥	一	四二、四三、
末廣がり	絃、哥	二	四三、四四、

樂ノ三段目	二	
肥前節　三下リ	二	
〃　本てうし	二	
〃　変リ　一下リ	二	
亂	一	
只合	二	
管絃	二	
中ノ舞	二	
序ノ舞	二	
鳴物調入合方	一	
石投	二	
芋坂	二	
木魚	二	
幕三重	二	
愁三重	一	
送リ三重	一	
行列三重	二	
合戰	二	
忍ビ三重	一	
辻打	二	
床下セリ上ゲ（千代萩）	二	
テンツ、	一	
深山	一	

紅葉山	一	
かるかや	一	
本てうし早メ	一	
水氣様早メ	二	
陣立（武田、陣立）	一	
立廻り（しころ引、雙盤入二種、一人飛）	一	
木魚（トンツ、）	一	
はつゞき	一	
暴馬	二	
雙盤入（大拍子）	一	
大拍子（時代狂言）	二	
濱唄（磯の松ケ枝）	一	
〃（沖はなぎよふて）	一	
〃（ひけやひけ〳〵）	一	
〃（伊豆の下田）	一	
〃（沖はなぎよふて）三メリ	一	
〃（沖の大舩）	一	
追廻し	二	
禪の勤（新紫）	一	
社殿の唄（花の木の間）	二	
難舩（千鳥、一下り）	二	
喧嘩	一	
山門のセリ上ケ	二	

おかしみの立廻り 三種	一		
馬士唄（箱根八里、跡の立場）	一		
追分（關東出てから、わしが思ひは、かはい男）	一		
在郷様馬士唄	一		
丸橋忠弥捕物 二種	一		
ドンタツポ 二種	一		
岡崎の猫踊（古寺、狂ひ、油なめ）	一		
鹽原多助馬ノ別レ虫ノ合方	一		
紅葉山織田大炊ノ出合方	一		
葛西念佛	一		
〃 手負	一		
四ツ竹（義理と情、さんげ〳〵）	一		
忠臣藏七段目幕開	一		
煤掃唄	一		
鳥追ひ	一		
本町貳丁目	一		
土手の提燈	一		
三河島（上野の戰爭の狂言）	一		
重盛諫言琵琶の合方	一		
琵琶景清立廻り	一		
樂（星くり、慈童）	一		
胡蝶の舞ノ樂	一		
鷄合の樂	一		

連獅子ノ樂	一		
もゝ〔の〕木	一		
淺 妻	一		
所作の切	一		
菊慈童の樂	一		
獅子の切	一		
琴唄（仰せ嬉しや、心盡し）長唄十二段ノ内	一		
夢は巫山の（琴唄ニ用ユ）	一		
喜の内 〃	一		
天人羽衣の内 〃	一		
童獅子の内 〃	一		
早 笛	一		
難 船	二		
與 作	二		
紅葉狩	一		
在郷様 三種	一		
禍	二		
名取草（鬼次ノ拍子舞）	一		
百千鳥道成寺	一		
水氣三重	二		
遠寄三重	二		
三下り 九種	二		
おかしみ	一		

本てうし行列三重	一		
變り合方 三種	一		
なまめき	一		
本てうし 八種	二		
劇 合	一		
星ぐり	二		
咸陽宮	二		
本てうし合方 二種	二		
本てうし中ノ舞	二		
寺音樂	二		
禪 勤	二		
キン入合方	二		
禪勤樣木魚 二種	二		
木 魚	二		
三河島くづし	二		
金閣寺樣禪勤	二		
反響 三種	二		
對面三重（ジウ）	二		
スゴミ樣	二		
反響樣	二		
新內くづし	二		
淋し味	二		
虫	二		

鷹 野	一		
在鄕樣鷹野	一		
谺（コダマ）	一		
大拍子	一		
揚 弓	一		
宮神樂（女ノ居ル場合）	一		
おかしみおつかけ	一		
修羅囃子 三種	二		
石 段	二		
松の木	二		
組 打	二		
六部三重	二		
しころ引	二		
立廻り合方 四種	二		
大小立廻り 二種	一		
十番切の立廻り	二		
三メリ早メ	二		
甲ノ只合	二		
物着 二種	二		
モヽノキ	二		
肥前節 一下リ	二		
六段戀慕	一		
琵琶ノ合方 二種（本てうし、三メリ）	一		

八千代戀慕	一		
カハリ中の舞	二		
一丁入リノ合方 二種	二		
一丁	二		
鷹野	二		
大癒 二種	二		
金閣寺	二		
大太鼓入 三種	二		
遠寄早メ	二		
赤羽根	二		
三下早メ	二		
大小立廻リモノ	二		
知盛	二		
力ノ立廻リ	二		
早笛	二		
難船	二		
急流	二		
河中嶋	二		
兒來也	二		
ダンマリ 二種	二		
木の葉落し	二		
竹笛入 二上リ四種 三下リ三種	二		
世話ダンマリ	二		

大小立廻リ 二種	二		
きぬた 三種	二		
一ツ鐘	二		
粟餅	二		
米洗ヒ	二		
キン入様	二		
二上リ夜神樂	二		
穴堀り	二		
與次郎	二		
本てうし在郷様	二		
四丁目 二種	二		
木遣くづし	二		
屋臺はやし	二		
二上リ新内様	二		
め組喧嘩	二		
それと目だたぬ（端唄）	二		
晴れて雲間 〃	二		
地藏經	二		
十三佛	二		
哥念佛	二		
飴屋哥	二		
小木魚哥	二		
阿房陀羅經哥	二		

麥搗歌		二	
つる〳〵		二	
品川哥		二	
どうぞかなへて		二	
大津八丁		二	
隣柿の木		二	
臼挽哥		二	
村デナア		二	

箏曲

曲名		稿	年度
亂	絃、哥	濟	四二、
早春の興	絃、哥	仝	四二、四五、
椿盡し	絃、哥	仝	四二、四三、
八段	絃	仝	四二、四五、
雲の上	絃、哥	仝	四五、
松むし	絃、哥	仝	四五、
友千鳥	絃、哥	仝	四五、
薄かすみ	絃、哥	仝	四三、四五、
三ツの舩	絃、哥	仝	四三、四五、
榮ゆる宮	絃、哥	仝	四四、
四季の友	絃、哥	二	四二、
明石	絃、哥	二	四三、
多摩川	絃、哥	二	四三、
越後獅子	絃、哥	二	四三、
須磨の曲	絃、哥	二	四三、
四段砧	絃	二	四三、
七段	絃	二	四三、
千里の梅	絃、哥	二	四三、
江の嶋	絃、哥	二	四四、
かざしの雪	絃、哥	二	四四、
松盡し	絃、哥	二	四四、
六段替手	絃	二	四四、
櫻がり		二	四四、
末のちぎり		二	四四、四五、
箏曲集第一集、姫松、若竹、櫻、花競、螢、歌の道、落梅、弓八幡、手習、小野の山、秋の七草、富貴の曲、雪の朝、春の花、六段の調			四五、大正二、

〔手書き〕

大正三年度

大正三年伺豫定表(1)　　大正三年三月末日調

流名	前期	後期
平曲	八坂流訪月	腰越狀
能樂	西王母	羽衣

箏曲	第一編改訂	第三編再調査
京唄	根引の松替手、八重衣替手	
都一中節	信田妻、廓の壽	鉢の木
菅野一中節	三勝鷄卵酒（たまござけ）	稽首國道行、自然居士
常磐津節	戻〜篭〜色相肩（もどりかご）	傳授の雲龍
富本節	其俤淺間嶽（あさま）	年朝嘉例壽（長生）
清元節	榮能春延壽（長生）	初霞淺間嶽（あさま）
新内節		明烏夢泡雪（あけがらす）
河東節	水調子	濡扇
長唄	童子戯面被（めんかぶり）	鷺娘
めりやす	五六曲	仝上
劇場合方	金襖用合方本調子合方ヲ含ム 其一	仝上 其二

（1）再調査の予定。

報告

一 平曲　訪月（八坂流）
一 能樂　西王母
一 京唄　鳥邊山
一 都一中節　廓の壽
一 菅野一中節　三勝鷄卵酒
一 常磐津節　戻籠（ママ）色相肩
一 富本節　幾菊蝶初音道行（ただのぶ）
一 清元節　榮能春延壽（長生）
一 河東節　水てうし
一 長唄　童子戯面被（めんかぶり）
一 めりやす　白妙、小夜千鳥、
一 劇場合方　金襖用合方　壹集

〔大正三年七月十八日、主事富尾木知佳より掛長湯原元一へ提出〕〔手書き〕

京唄調査曲目報告書

根曳の松
八重衣（本手）
四つの袖
十三かね
千鳥の友
柳かみ
あらわれ草
鳥邊山
殘月
舞鶴
口切
ふところ
高砂
夕の雲
ゆかりの月
以上原稿
以上淨書濟

右報告候也

〔大正三年七月十八日、三宅延齢より掛長湯原元一へ提出〕〔手書き〕

大正五年度

〔雅樂〕

一 雅樂調査第一期ヲ三ケ年トス
一 調査スベキ曲目左ノ如シ

壹越調
胡飲酒破　蘭陵王　春鶯囀入破　颯踏　賀殿破急
平調
越天樂　陪臚　三臺急　春揚柳　萬歳樂（林歌）
雙調
酒胡子　春庭樂
黄鐘調
拾翠樂　喜春樂　鳥急
盤渉調
千秋樂　蘇合香急　輪臺　青海波　蘇莫者破
太食調
合歡鹽　朝小子　長慶子

以上二十四曲

〔欄外に「湯原」印と大正五年十月九日の日付〕　〔手書き〕

〔能楽その他〕

邦樂調査ハ前年度ニ引續キ能樂ハ枕兒童、花月、羽衣、箏曲ハ箏曲集第三編トシテ出板スベキ原稿ニシテ、常磐ノ榮、玉川、かさしの雪、四季の友、江の嶋、七段、千里の梅、松盡し、四段きぬた、櫻狩、明石、越後獅子、六段替手、都一中節ハ傾城淺間嶽、松の羽衣、賤機帶、丹波與作、猩々、皐月の前等再調ス　菅野一中節ハ江戸紫、神樂高砂、尾波瀬の隱井、萬屋助六、鉢の木、安宅の道行、業平河内通、かしく新屋敷等ヲ再調ス、河東節ハ江戸節根元集ニ依リ斯流ノ曲節、松の内、縺れ髪、富本節ハ年朝嘉例壽、奈須野、春夜障子梅（夕霧）、其俤淺間嶽（下）常磐津節ハ四天王大江山入、戀中車初音の旅、新内節ハ千日寺名殘鐘、赤坂竝木、長唄ハ菊壽の草摺、高尾懺悔の段、宇佐の幣、正札附根元草摺、英執着獅子、外記節傀儡師、雅樂ハ十翠樂、酒胡子、越天樂、胡飲酒破、青海波、千秋樂、蘭陵王等審査改究セリ　〔手書き〕

大正六年度

邦樂調査事功報告

大正六年度自一月至十二月於ケル曲節方面新調査幷ニ前年度分再調査及ビ文書方面成績報告左ノ如シ

第一　曲節方面

一、新調査

流名	曲名	着手期	完了期	擔當者
雅樂	蘭綾王破（ママ）	本年一月	〃六月	弘田外四名
〃	青海波	〃一月	〃六月	〃
〃	千秋樂	〃二月	〃五月	〃
〃	合歡鹽	〃四月	〃六月	〃
〃	十翠樂	〃五月	〃六月	〃
〃	陪臚	〃五月	〃六月	〃
〃	三臺鹽急	〃六月	〃七月	弘田外四名

雅樂	賀殿急 壹越調	〃〃 六月 十一月	〃
〃	長慶子 太食調	〃〃 六月 十一月	〃
〃	喜春樂破 黄鐘調	〃〃 六月 十一月	〃
〃	賀殿破 壹越調	〃〃 七月 十一月	〃
〃	蘇合香急 盤渉調	〃〃 十月 十二月	〃
〃	颯踏 壹越調	〃〃 十一月 十二月	〃
〃	入破 〃	〃〃 十二月 〃	〃
〃	萬歳樂 平調	〃 十二月 調査中	〃
平曲	（ナシ）		
河東節	松のうち	前年度 本年四月	弘田
〃	もつれ髪	〃〃	〃
〃	助六所縁江戸櫻	本年四月 調査中	〃
能樂	（ナシ）		
都一中節	（ナシ）		
菅野一中節	（ナシ）		
常磐津節	戀車初音の旅	本年三月	前田
富本節	春夜障子梅（夕霧）	前年度ヨリ 本年二月	三宅

清元節	（ナシ）		
新内節	（ナシ）		
江戸長唄	正札附根元草摺（草摺引）	前年度ヨリ 本年三月	三宅
〃	心猿の秋月（しん猿）	本年四月 〃 五月	〃
〃	亂菊枕慈童（枕慈童）	〃〃 五月 十二月	〃
〃	枕獅子	本年一月京都ニテ	〃
〃	常磐庭	本年八月京都ニテ	〃
箏曲	（ナシ）		
上方唄	（ナシ）		
外記節	（ナシ）		

二、再調査豫定表

流名	大正六年上半期 一月ヨリ 六月末日迄	大正六年下半期 七月ヨリ 十二月末日迄	
平曲	（ナシ）		
能樂	融 片越一聲、出端、早舞	蘆苅 カケリ、男舞	
都一中節	吉原八景、さつきの前	賤機帯（しづはたおび）	
菅野一中節	萬屋助六	神樂高砂	
富本節	百夜菊色の世中（ももよぎくいろのよのなか）（せきでら）		
清元節	（ナシ）		

新内節	明烏夢泡雪（あけがらすゆめのあはゆき）	若木仇名草（わかき〔の〕あだなぐさ）	
常磐津節	大江山（五年後半ヨリ継続）	千本櫻道行（みちゆき）	
河東節	（ナシ）	もつれ髪	
長唄（今藤）	初咲法樂舞（はつさきほうらくまひ）	高尾懺悔	
長唄（吉住）（杵屋）	宇佐の幣（みてぐら）		
箏曲	第三編	第四編調査始メ	
劇場合方	（ナシ）		
めりやす	（ナシ）		
外記節	傀儡師		

三　再調査

流名	曲名	着手期	完了期	擔當者
雅樂	（ナシ）			
平曲	（ナシ）			
能樂	融	〃	本年六月	三宅
〃	片越一聲	〃	〃	〃
〃	出端	〃	〃	〃
〃	早舞	〃	〃	〃
〃	蘆苅	調査中		〃
能樂	男舞	〃	本年十一月十二月	〃
〃	カケリ	〃	〃	三宅
河東節	縺れ髪	〃	本年十一月十二月	弘田
都一中節	猩々	〃	本年一月二月	前田
〃	皐月の前（さつき）	〃	〃 三月	〃
〃	松の羽衣	〃	〃 四月五月	〃
〃	お夏笠物狂	〃	〃 五月六月	〃
〃	吉原八景	〃	〃 四月四月	〃
菅野一中節	墨繪の島臺	調査中		〃
〃	助六道行	〃		〃
〃	神樂高砂	〃	本年五月六月	〃
〃	鉢の木	調査中		〃
常磐津節	四天王大江山入	〃	本年四月十二月	〃
〃	忍寄戀曲者	調査中		〃
江戸長唄	初咲法樂舞	〃	本年六月	三宅
箏曲	江の嶋	以下十三曲は本年一月十三日より十二月迄		前田
〃	四季の友	反覆（ママ）調査中		〃
〃	七段の調			〃

〃	前田			箏曲
〃	〃			千里の梅
〃	〃			松づくし
〃	〃			四段砧
〃	前田			櫻狩
〃	〃			明石
〃	〃			越後獅子
〃	〃			六段の調替手
〃	〃			常磐の榮
〃	〃			玉川
〃	〃			かざしの雪
				上方唄
〃	弘田	本年六月 〃七月		外記節
〃	三宅	本年六月 〃		富本節
〃	〃	本年四月 〃		〃
〃	〃	本年五月 〃		〃

ノ主タル事業ハ昨年度ヨリ繼續ノ「近世邦樂年表義太夫の部」ノ編成ナリ、而シテ其ノ資料ニ對スル調査考究及ビ之ガ整理ハ割合ニ順當ニ進ミ頗ル好成績ヲ擧ゲ得タリ、ソノ概要左ノ如シ

前半期(便宜上暑中休暇迄)ニ於テハ昨年末京阪地方ヘ出張シタル際借入レシ操芝居番附約一千五百枚ニ對スル年代的考證、必要ナルモノヽ謄寫、カード作成等ニ專ラ力ヲ致シタリ、其ノ結果トシテ享保末年ヨリ明治初年ニ至ル迄ノ義太夫劇ニシテ登場年月出演者ノ役割等ノ明瞭ニナリシモノ約五百番ニ及ビ、實ニ義太夫年表編成上ニ一大光明ヲ認メ得タリ、而シテソノ年表編成上ノ根本資料トシテ是等ノ番附ヨリカードニ收メタルモノ約壹千枚、影寫シタル繪番附約三百枚ニ及ベリ、附テ言フ是等ノ貴重ナル番附ヲ特ニ貸附セラレシハ故二見金助(竹本攝津大掾)、木谷正之助、永田好三郎、金杉彌太郎(豐竹古靭太夫)、渡邊霞亭、木村助三郎、京都大學圖書館等ナリ

後半期ニ至リテハ是迄蒐集シ得タル資料ヲ整理シテ年表ノ第一稿ノ淨書ニ着手シ、發端ヨリ明和迄ノ分ハ九月下旬ニ、又天保ヨリ慶應迄ノ分ハ十二月上旬ニ脫稿シ得タリ、然レドモ其ノ中間ナル安永ヨリ文政迄ノ分ハ資料尙ホ不十分ニシテ且年代ノ考證最モ困難ナルガ爲ニ未了ノマヽ來年度ニ引繼グノ止ムヲ得ザルニ至レリ　原稿ノ淨書ト相俟チテ又他ノ一方ニ於テハ一層廣ク資料ノ探訪蒐集ヲナサンガ爲ニ在京ノ各圖書館又ハ藏書家ノ文庫ニツキテ此ノ方面ノ祕書ヲ借覽スルコトニ努力シ殆ンド席暖カナルニ遑アラズ、加之又丸本ノ板式・內容・取材脚色ノ系統等ヲ研究シテ之ニ據リテ其ノ著作年

第二　文書方面

報　告　書（黑木勘藏提出）

本校邦樂調査掛ノ本年度事業中拙者擔任ノ範圍ニツキテ言ヘバ其

月ニ關スル在來ノ記述傳說等ノ眞否ヲ判定スルノ傍證トナサント志シ、初代竹本義太夫ノ正本及ビ同時代ノ宇治加賀掾ノ正本ヨリ始メテ次第ニ近世ノモノニ及ブノ方針ヲ採リツヽアリ、コノ事タル難事中ノ難事タリト雖モ年表編成上是非通過セザル可カラザル關門ナリト信ズレバ、勞多クシテ功尠キ結果トナルナキヲ保セズト雖モ尙來年度ニ於テモ繼續センコトヲ期ス、尤モ着手以來日尙淺キモ多少ノ新發見ヲナシ得タルハ竊カニ意ヲ强クスル所ナリ

本年度ニ於テ謄寫セシメタル圖書左ノ如シ

一、操芝居繪番附（自元文至安永）　參百枚
（原本所藏者、故二見金助　永田好三郎　木谷正之助　帝國圖書館）　〔小林波之輔影寫〕

一、操芝居字番附（自天明至文化）　貳册（百六十枚）
（帝國圖書館所藏）　〔雇寫〕

一、賢女手習幷新暦（義太夫正本稀世ノ珍本）　壹册
（永田好三郎所藏）　〔小林波之輔影寫〕

一、新板腰越状（竹本義太夫正本）　壹册
（永田好三郎所藏）　〔早川與甫寫〕

一、難波染八花形（宇治加賀掾正本）　壹册
（東京帝國大學圖書館所藏）　〔早川與甫寫〕

一、いろは茶屋の濫觴　壹册
（渡邊霞亭所藏）　〔早川與甫寫〕

一、劇場一覽（いろは茶屋の濫觴異本）　壹册
（六合新三郎所藏）　〔早川與甫寫〕

一、忠臣藏考（西澤一風稿本）　壹册
（木村助三郎所藏）　〔雇寫〕

一、劇場年鑑（濱松歌國編カ）　參册
（木村助三郎所藏）　〔早川與甫寫〕

一、大坂歌舞妓年鑑　七册
（六合新三郎所藏）　〔雇寫〕

一、音曲節名糸章調（五世竹本彌太夫作）　壹册

一、淨瑠璃節集三味線章附（同人作）　壹册
（木谷正之助所藏）　〔早川與甫寫〕

一、續名聲戲場談話堺町の部　壹册
（帝國圖書館所藏）　〔早川與甫寫〕

一、宴曲集　八册
（安田善之助所藏）　〔小林波之輔影寫〕

一、舞曲扇林　貳册
（安田善之助所藏）　〔小林波之輔影寫〕

〔大正六年十二月二十四日、高野辰之より茨木清次郎校長へ提出〕　〔手書き〕

大正七年度

邦樂調査事〔功〕報告

大正七年度（自一月至十二月）樂曲方面竝ニ文書方面ノ調査事蹟左ノ如シ

第一　樂曲方面

一　新調査

流名	曲名	着手期	完了期	擔當者
雅樂	春揚柳　平調	自大正七年二月	至〃三月	東儀多、弘田多、

流名	曲名	着手期	擔當者
〃	鳥急　黄鐘調	自〃二月 至〃六月	〃
〃	朝小子　太食調	自〃二月	〃
〃	春庭樂　雙調	自〃三月 至〃六月	〃
〃	林歌　平調	自大正七年三月 至〃六月	東儀、多、多、弘田
〃	蘇莫者破　盤渉調	自〃三月	〃
〃	輪臺　〃	自〃四月 至〃十一月	〃
〃	記譜法	大正七年七月報告濟	
〃	笙ノ手移	自大正七年十二月	東儀、多、多、島崎、弘田
〃	止手	自大正七年九月 至〃十一月	東儀、多、多、弘田
河東節	助六由縁江戸櫻	大正七年二月	弘田
	神樂獅子	自大正七年三月 至〃十一月	弘田
菅野派一中節	夕霞淺間ヶ嶽	自大正七年六月 至〃十二月 凡ソ三分ノ二調査濟	前田
江戸長唄	薮入娘	自大正七年一月	三宅
	亂菊枕慈童	自〃二月	三宅
上方唄	八段　殘月	自大正七年一月 至〃十二月	三宅
	梓融	〃	三宅

二　再調査

流名	曲名	着手期 完了期	擔當者
雅樂	越天樂	自大正七年十一月	東儀、多、多、弘田
菅野一中節	神樂高砂	大正七年一月ヨリ三月マデ 凡ソ二分ノ一調査濟	前田
〃	二重帶名古屋結	大正七年四月ヨリ七月マデ 凡ソ三分ノ二調査濟	〃
常磐津節	忍夜孝事寄	大正七年一月ヨリ 凡ソ三分ノ二調査濟	〃
清元節	保名	（調査中）	三宅
江戸長唄	高尾さんげの段	（調査中）	〃
上方唄	八段（三味線）	大正七年十二月	〃
箏曲	七段		今井、島崎、前田、北村
	江の島	大正七年一月	〃
	千里の梅	〃二月	〃
	四段砧	〃四月	〃
	越後獅子	大正七年五月	今井、嶋崎（ママ）、前田、北村
	明石	自大正七年五月 至〃十一月	〃
	櫻狩	自〃 至〃	〃
	六段替手	大正七年六月	〃
	松盡し	〃	〃
	常盤の榮		〃
劇場合方	俵ノ合方	大正七年一月	北村、細谷、坂田
	連理引、時太鼓、山おろし	〃二月	
	波ノ音、水ノ音		
	寄セ、漣		

雨ノ音、風ノ音 雪おろし、風吹 三ツ地　ツヾケ 上ゲ　打切 序ノ舞、雷ノ音 ドロ〳〵、捕物 アバレ、登城ノ太鼓 岩戸神樂、岩戸 遠寄、宮神樂ノ竹田 宮神樂ノ替手、社殿 渡リ拍子 通り神樂、狂言羯鼓 ながし、宮神樂 津島神樂、御代神樂 祇園ばやし、金獅子 三河島合方、忠彌捕物 ドンタッポ、早ドンタッポ みだれ、肥前節 大太鼓入、竹田 一丁、鷹野 紅葉山、物着 もゝの木、琵琶ノ合方 三段目、大癒 鈴ノ合方、六段戀慕 八千代戀慕、石投	大正七年三月 〃　五月 〃　六月	北村

新内くづし、木の葉おとし 兒雷也、川中島 女用替リ合方、寺音樂 キン入合方、芋坂合方 三河島くづし、木魚 禪勤、禪勤樣木魚 金閣寺樣禪勤、ダンマリ樣 谺、谺樣 水氣三重、對面三重 六部三重、行列三重 遠寄三重、送三重 うれひ三重、幕 シャギリ、忍三重 しつと合方、早メ合方 變リ合方、千鳥 大拍子、宮神樂 揚弓の合方 石段の立廻リ、松の木の立廻リ 組打、景清錣引 十番切立廻リ	〃　七月 〃　十月 〃　十一月 〃　十二月	

第二　文書方面

一　義太夫年表整理　　擔當者　黒木

安永元年ヨリ文化十二年マデ

二　調査資料蒐集　　擔當者　黒木、早川

めりやす　三十五段	一冊	内山	
助六心中	一冊	早川	
三社の託宣	一冊	早川	
曾我五人兄弟（蝨本）	一冊	内山	
碁盤太平記	一冊	早川	
義經追善女舞	一冊	早川	
金屋金五郎後日雛形（蝨本）	一冊	内山	
本領曾我	一冊	早川	
丹波與作待夜の小室ぶし　加賀掾正本	一冊	早川	
源氏供養（蝨本）　〃	一冊	内山	
雪女	一冊	内山	
劇場歌謠新古類聚	一冊	早川	
操芝居番附　天明八年ヨリ文化十四年ニ至ル　百五枚	一綴	内山	
曲節集　竹本綱太夫傳	一冊	内山	
信濃源氏木曾物語	一冊	早川	

右報告仕候也

追テ雅樂箏曲以前ノ調査樂曲ガ本年度ノ初ニ提出致シ候豫定表ト相違致候ハ再調査方針改リテ掛員ガナルベク協力シテ一流一派ノ曲ニ當ルコト、ナリタル結果ニ候　〔手書き〕

〔大正七年十二月二十四日、主事高野辰之より校長村上直次郎へ提出〕

（『邦樂調査掛關係書類　下』）

大正八年度

邦樂調査事功報告

大正八年度自一月至十二月ノ調査成績ハ次ノ如クデアリマス。

第一　曲節方面

一、新調査

流派	曲名	着手期 完了期	擔當者
雅樂	朝小子　雙調	一月ヨリ二月ニ至ル	弘田
〃	音取　六調子	一月ヨリ六月ニ至ル	〃
〃	蘇莫者破　盤涉調	三月ヨリ二月ニ至ル	〃
〃	青海波　波返シ	一月	〃
〃	迦陵頻破　壹越調	九月ヨリ調査中	〃
〃	迦陵頻急　壹越調	九月ヨリ調査中	〃
〃	回盃樂　〃	十月ヨリ　〃	〃
〃	北庭樂　〃	十月ヨリ　〃	〃
〃	承和樂　〃	十一月ヨリ　〃	〃
〃	十天樂　〃	十二月ヨリ　〃	〃
〃	酒胡樂（子）　〃	十二月ヨリ　〃	〃

〃	酒清子 〃	十二月ヨリ 〃	〃	〃
河東節	灸すへ巖の疊夜着	九月ヨリ十一月ニ至ル	〃	〃
長唄	鶴亀	五月	北村	〃
〃	吉原八景	五月	〃	〃
〃	吉原雀	六月	〃	〃
〃	連獅子	十月	〃	〃

二、再調査

流派	曲名	着手期 完了期	擔當者	
雅樂	越天樂 平調	八月	弘田	〃
〃	音取 各調子	八月	〃	〃
〃	胡飲酒破 壹越調	四月ヨリ八月ニ至ル	〃	〃
〃	春鶯囀颯踏 〃	九月ヨリ十二月ニ至ル	〃	〃
河東節	神樂獅子 下	前年度ヨリ二月ニ至ル	〃	〃
江戸長唄	勸進帳	五月	北村	〃
江戸長唄（劇場合方）	難船、急流、瀧ながし	一月	〃	〃
〃	磯のナー（濱唄）	二月	〃	〃
〃	沖はナー（〃）	二月	〃	〃
〃	箱根八里（馬士唄）	二月	〃	〃
〃	跡の立場（〃）	二月	〃	〃
〃	演劇拍子記（半バ迄）	三月	〃	〃
〃	類別調査	四月	〃	〃

〃	早木魚 穴堀り	九月	〃	〃
〃	與次郎、さびしみ	九月	〃	〃
〃	歌念佛、十三佛	十一月	〃	〃
〃	地藏經、小木魚	十一月	〃	〃
〃	ふかく契りし、わしがこのみ	十二月	〃	〃
〃	阿房陀羅經	十二月	〃	〃
一中節	夕霞淺間嶽	一月ヨリ十二月迄	前田	〃
〃	二重帶名古屋結	調査繼續中	〃	〃
〃	神樂高砂	〃	〃	〃
常磐津節	忍夜孝事寄	〃	〃	〃
箏曲	常磐の榮	〃	嶋崎（ママ）、今井、前田、北村	〃
〃	玉川	〃	〃	〃
〃	かざしの雪	〃	〃	〃
〃	四季の友	〃	〃	〃
〃	江の嶋	〃	〃	〃
〃	七段の調	〃	〃	〃
〃	千里の梅	〃	〃	〃
〃	松づくし	〃	〃	〃
〃	四段きぬた	〃	〃	〃
〃	櫻狩	〃	〃	〃
〃	明石	〃	〃	〃

〃	越後獅子	〃	〃
〃	六段替手	〃	〃

第二　文書方面

一、編　纂

擔當者　黒　木

近世邦樂年表編纂に關しては、前年度よりの繼續事業として義太夫節の部編成に專心從事し、前年來の足らざる資料の蒐集、その整理、年表稿本の脫稿等に力を盡し安永元年より文政十二年に亘る分二百七十餘枚の稿本を脫稿したり。

二、調査研究資料として謄寫

本年度に謄寫せしめたるもの左の如し

（書　名）	（摘　要）	（原本所藏者）	謄寫擔當者
粟嶋大明神御緣起	加賀掾正本絵入細字本	帝國圖書館	内山波之輔
甲子祭	加賀掾正本八行本	安田善之助	〃
愛染明王影向松	〃	帝國圖書館	早川與甫
賴政扇子芝	〃	〃	〃
信田森女占	豐竹若太夫正本八行本	〃	〃
鬼鹿毛無佐志鎧	〃	伊原敏郎	〃
傾城三度笠	〃	〃	〃
巴太鼓	加賀掾正本八行本	伊原敏郎	早川與甫
善峯寺開帳	〃	〃	〃
文武五人男	竹本義太夫正本八行本	〃	〃
那須與一小櫻威	〃	〃	〃
愛宕山旭峯	加賀掾正本八行本	〃	〃
助六後日傾城おかた成	都一中正本七行本	渡邊霞亭	〃
法隆寺開帳	竹本義太夫正本八行本	〃	〃
坂上田村麿	豐竹上野少掾正本七行本	〃	〃
當麻中將姫	竹本義太夫正本八行本	〃	〃
神託粟萬石	竹本筑後掾正本八行本	〃	〃
大福神社考	竹本義太夫正本八行本	〃	〃
大覺大僧正御傳記	〃	〃	〃
田村將軍初觀音	〃	〃	〃
信田小太郎	〃	〃	〃
麻耶山開帳	加賀掾正本八行本	〃	〃
下關猫間達	〃	〃	〃
義太夫評判記	自寶曆至安永合本	文博藤井乙男	〃
三絃家系譜	豐後〔澤〕廣助自筆稿本		〃
宮薗大全	宮薗節段物集寶曆十二年刊	永田好三郎	〃

以上

〔手書き〕

〔大正八年十二月二十七日、主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

大正九年度

報告書

大正九年度中ノ邦樂調査掛ノ事業中私儀擔當ニ關係アル文書上ノ調査研究竝ニ資料蒐集方面ノ事業成績ノ概要左ノ如シ

一、年表編成

邦樂年表編成ノ事業ハ前年度ニ引續キ義太夫年表稿本ノ整理完成ノ爲ニ力ヲ致セリ、ソノ主要ナル條項左ノ如シ

(1)義太夫年表ノ起點タル延寶五年ヨリ正德年間ニ至ル迄ノ三十餘年間ニ亘ル部分ノ稿本ヲ修正增補シテ定稿トナセリ。

(2)前年度ニ脫稿セル安永ヨリ文政ニ亘ル期間ノ資料ノ不足セルモノヲ補ヒ、又太夫、三味線彈キ等ノ傳記ヲ取調ベテ記入ス。

(3)享保末年ヨリ寬延末年ニ亘ル間ノ刊行ニ拘ル丸本百三十餘册ヲ通讀シテソノ梗概ヲ作リ之ヲ備考欄ニ收メタリ。

(4)年表資料ノ足ラザルモノ、搜索ノ爲ニハ尠カラズ努力シ、公私圖書館又ハ個人ノ藏書借覽等ヲ怠ラザリシ結果幸ニモ相當ノ成績ヲ擧ゲ得タリ。殊ニ細川賀茂氏所藏ノ丸本中ヨリ未見ノ珍書十餘種ト享保ヨリ明和ニ亘ル操芝居番附二十餘種ヲ發見シテ年表ノ缺陷ヲ補フヲ得タリ。

二、資料蒐集

調査資料蒐集方面ニ於テ特ニ報告スベキハ謄寫ノ事業ニシテ、本調査掛ノ研究資料トシテ必要ナリト認メテ圖書館又ハ私人ノ藏書ヲ借入シテ謄寫セシメタルモノ左ノ如シ

書名	所屬流派	原本所藏者	謄寫擔當者
陸奥杣谿谺	義太夫段物集	帝國圖書館	早川與甫
豐回(曲)不二谺	同　上	同　上	同　上
女人卽身成佛記	宇治加賀掾正本	同　上	同　上
佛法舍利都	義太夫節正本	同　上	同　上
團扇曾我	宇治加賀掾正本	同　上	同　上
金屋金五郎浮名額	義太夫節正本	細川賀茂	同　上
京わらんべ	加賀掾正本	同　上	同　上
義經東六法	義太夫節正本	同　上	同　上
弱法師	同　上	同　上	同　上
自然居士	同　上	早稻田大學圖書館	同　上
袂の白絞り	同　上	同　上	同　上
山王七社權現舩謠		帝大圖書館	同　上
めりやす豐年藏	長唄めりやす正本集	六合氏より又借り	同　上
繪表紙 長唄正本集 七十段		町田博三	同上 瀧島提文
傀儡師	外記節	同　上	同　上
住吉踊	同　上	同　上	同　上
繪表紙 常磐津正本集		同　上	同　上
長唄稽古本 八段		同　上	早川與甫

〔大正十年四月二十七日、嘱託黑木勘藏より掛長村上直次郎へ提出〕〔手書き〕

報告

大正九年一月ヨリ大正十年三月ニ至ル迄雅樂ハ次ノ如ク調査致候

曲名	調子	調査時日
回春樂	壹越調	大正九年一月
武德樂	〃	自大正九年一月至同年五月
酒清司	〃	〃　至同年四月
酒胡子	〃	〃　至同年六月
壹團嬌	〃	〃　至同年五月
新羅陵王急	〃	〃　至同年四月
菩薩破	〃	〃　至同年二月
十天樂	〃	〃　至同年三月
北庭樂	〃	大正九年二月
慶雲樂	平調	自大正九年二月至同年六月
承和樂	壹越調	大正九年三月
小娘子	平調	自大正九年三月至同年六月
王照君	〃	〃　至同年五月
鷄德	〃	〃　至同年六月
甘州	〃	〃　至同年六月
勇勝急	〃	〃　至同年七月
迦陵頻破	〃	大正九年三月
扶南	〃	自大正九年三月至同年五月
老君子	〃	〃　至同年六月
夜半樂	〃	自大正九年四月至同年六月

皇麞急	〃	〃　至同年五月
五常樂急	〃	〃　〃
相府蓮	〃	自大正九年五月至同年七月
裏頭樂	〃	〃　至大正十年二月
五常樂破	〃	〃　至同年十月
迦陵頻急	壹越調	大正九年六月（再調査）
柳花苑	雙調	自大正九年六月至同年十一月
武德樂	〃	〃　至同年九月
回盃樂	〃	〃　至大正十年二月
胡飲酒破	〃	自大正九年七月至同年十月
新羅陵王急	〃	〃　〃
鳥急	〃	自大正九年九月至大正十年二月
入破	〃	〃　〃
賀殿急	〃	自大正九年十月至大正十年二月
陵王	〃	〃　至大正十年三月
越天樂	黃鐘調	大正九年十月
颯踏	雙調	自大正九年十一月至大正十年二月
千秋樂	黃鐘調	大正九年十一月
鳥破	雙調	自大正九年十一月至大正十年二月
北庭樂	〃	〃　至大正十年三月
賀殿破	〃	自大正九年十二月至大正十年二月
海青樂	黃鐘調	〃　至大正十年三月
西王樂	〃	大正十年一月

颯踏	壹越調	自大正十年一月至同年二月（再調査）
青海波	黄鐘調	大正十年一月
越天樂	盤渉調	〃
林歌	平調	〃
平蠻樂	黄鐘調	自大正十年一月至同年二月
桃李花	〃	自大正十年二月至同年三月
蘇合香急	〃	大正十年三月
央宮樂	〃	〃

右之通リニ候也

〔手書き〕

〔大正十年四月、弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

大正九年度自大正九年一月至大正十年三月新調査竝ニ再調査報告

新調査

流名	曲名	着手期 完了期
山田流箏曲	末の松	大正九年十一月 調査進行中
薗八節	道行相合巨燵	大正九年六月 同 七月
同	里の色絲	大正十年三月 調査進行中

再調査

山田流箏曲	江の島	大正九年一月
同	常盤の榮	同 三月
山田流箏曲	玉川	同 四月
同	かざしの雪	同 五月
同	四季の友	同 五月
同	七段	同 六月
同	千里の梅	同 六月
同	松盡し	同 七月
同	四段砧	同 七月
同	櫻狩	同 九月
同	明石	同 十月
同	越後獅子	同 十一月
同	六段	同 十二月

聯合調査

關係者氏名 島崎 弘田 北村 梁田

一中節（菅の）	夕霞淺間嶽

前年度ヨリ継續 大正十年三月

〔大正十年三月二十五日、助教授前田久八より掛長村上直次郎へ提出〕〔手書き〕

自大正九年一月至同十年三月邦樂調査報告書

調査囑托 北村季晴 調

一、劇場合方（あひかた）の調査（毎火曜日午前）

前年に引續き諸種「合方」の上譜、其伴奏「鳴り物」の種類、各曲の劇に於ける使用上の範圍、從來使用されたる劇の實例等を近藤長十郎、六郷（ごう）新三郎の兩名に就き調査したり。曲名左の如し、

一、飴屋唄　一、麥搗唄　一、つる〳〵（田舍唄）

一、土手てう（土手の堤燈）　一、晴れて雲間　一、それと目出たぬ
一、須磨や明石　一、鬼次の拍子舞　一、立廻り（六種）
一、大小入り立廻り　一、みつ月　一、早　笛
一、千　鳥　一、知　盛　一、わさわひ
一、難　船　一、急流（二種）　一、瀧流し
一、諸合方（七種）　一、立廻り（三種）　一、俵の立廻り
一、暴　馬　一、本調子合方　一、木魚入り（二種）
一、葛西念佛　一、虫の合方　一、追ひ廻し
一、宮神樂　一、四ッ竹　一、油舐め
一、狂　ひ　一、木　魚　一、禪つと（禪の勤め）
一、舛　一、胡蝶の舞

以上計五十曲

外ニ一、「嶋衞月の白浪」に用ゐられたる諸合方（調査未了）

一、芝居鳴物ツケ帳の調査（未了）

この調査に着手してより以來累計約貳百餘種の劇場合方を一と渡り調査し了へたり。以上は通常劇に於て使用せらるゝ「合方」の大部分なりと信ず、然るに近く手に入りたる六郷（倉）新三郎手記の「芝居鳴物ツケ」（十數年に渉り諸芝居に於て上場せられたる劇に伴ひて實演されたる合方鳴物の書き留め）及「劇場歌謠類集」竝びに櫻田治助の「劇場拍子記」等を檢するに重要なる「合方」若は「鳴物」にしてなほ調査未濟のものゝ多少殘れるあるを認む、即ち今後は右等の書に依り漏れたるを補ひ、一面從來の樂譜を淨書し、要に從って鳴物譜を記入したるスコアを作り、又之に適宜評釋解說を施し、更らに諸方面より分類したる索引を添へて以てこの調査を完結せんとす。

抑モ邦樂は主として歌謠と終始し、樂器は多く之が伴奏の地位にあり、從て我か音樂には獨立せる器樂殆とある無しと稱せらる、然るにこゝにこの「劇場合方」は必しも歌謠に伴はず、三味線、鳴り物（笛鼓など）によりて、劇に於る登場人物の人格や其氣分や場面の情景等を表はさんとするものなり即ち其形は大ならずと雖邦樂中最も器樂的の性質を具ふるものなりと云ふべし（其或ものは邦樂に於ける一種のオ〔ー〕ケストラとも見るを得べし）余はこの劇場合方の調査完結は我音樂の器樂的內容を窺ふべき參考として重要の價値を有するものたるに至らん事を信ず

二、蓄音器に依る一中節の調査（毎火曜日午後）

故菅野序遊の吹込みにかゝる「夕霞朝（後）間ヶ嶽」に就き一同立合ひ聯合調査を重ね其大體を上譜し了へたり

調査にレコードを使用する事及び聯合調査の手段は前年余の提唱せる所にして即ち先づ試しに序遊をして右の歌曲（一中節代表的名曲の一）を吹込ましむる事と成りたる次第なるが、同人の聲量不充分なりし爲撮音明瞭ならず改めて再び吹込ましめんとの希望もありしが不幸にして同人は沒したるが爲止むなく前記不明瞭なるレコードを使用して調査を續行したり、從て割合永き時日と多大の努力とを要したるにも拘らず、十分滿足なる結果を得る能はざりしを遺憾とす。されば右の樂譜はさらに序遊の三絃彈き西山吟平又は序遊直系の門下等に就き調査參考して之が完成を期すべきものなりと信ず。序遊は實に菅野一中節に於ける稗田阿禮な

りき本樂譜完成の上は同流掉尾の名人の一中節として貴重なる參考樂譜たるを失はさるべし。

三、山田流箏曲の調査（毎土曜日）

前田助教授と共に調査に從ひ（當初は嶋崎教授も加はりたり）前年度に引續き今井教授に就きて十三曲の上譜を了したり（曲目は前田助教授の報告書に讓る）

從來この調査の目的は一面箏曲學習者の教程たらしめんとの意義を含みたるが如く其撰曲の如きも主として易より難、簡より繁の順に依り（從來の所謂稽古順にして余輩は之を以て必しも正當なる順序と認めず）目下「中許し」の程度にまで進みたり而して曲節の上譜法の如きも其靈妙微細なる個所は學習者の讀譜に困難なるべしとの理由？の下に或程度まで之を簡單化して記譜し來りたり（從來發表せられたる「箏曲集」一二篇既に然り又箏曲のみならず在來＝余の囑を受る以前＝本係に於て上譜せられたるもの多くは皆然るが如し）思ふにこれ誠實なる調査と云ふを得ざるべし、由來邦樂諸流の歌曲の特徴は主として其靈妙微細なる「節廻し」と「聲遣ひ」とに在て存す、若しこの特徴を蔑にし妄りに之を簡單化せば斯曲の妙味は失はれ樂譜は爲に重要なる價値の大部分を損するに至るべし（但し上譜の技術未熟にして微細なる曲節抑揚を寫すに耐へざりし際、先つ簡單なる上譜法により漸次其術に熟練せんとしたるものならんには余輩又何をか云はん）蓋し調査研究上の要より謂へば必しも學習の順序等に拘泥せず寧ろ當流の代表的歌曲に就て其在りのまゝを出來得べきたけ綿密微細に上譜し以て斯曲の眞髄を表示するに力むべきなり（教程の編製に就ては別に卑見あり）この見地より高野主事は之を今井教授に謀り今後は專ら代表的歌曲に就き最も綿密なる調査を遂ぐべき方針を取る事と成りたり

以上は過去一年間に於ける調査の經過、情況及び見込み等の大概なり、かくて諸流の歌曲が完全に上譜せらるゝに至らば邦樂保存の意義は幾分其目的を達し得べし（樂譜のみを以てしては完全なる保存は爲し能はじ今の西洋樂譜は邦樂の一大特徴たる聲色及聲遣ひを寫すに適せさればなり）而かもなほ進で諸流諸種の樂譜に就き相參照研究して各流の特徴を明らめ、從來不文律の裡に發達し來りたる邦樂の諸方面に渉りて或程度まで科學的釋明を得せしめ、諸流の律歴史的傳系を尋ね、或は學習上の秩序を組織的且つ教育的に編製して後進の啓發と普及とに便じ、或は紛糾錯雜せる曲節、手法等を演繹分類して其形式と内容とを明〔ら〕め、聲音及ひ樂器の可能性の擴張を考へ、國語と曲節との關係を究め以て將來斯道發展の資とするが如きは緊要の事なるべしと雖も本係り目下の情態を以てしてはそは遠き未來の事に屬するなるべし　若夫れ邦樂の現在及將來に對する施設其調査の方針方法等に就ては多少の私見あり機を得て陳述する所あらんを期す

〔手書き〕

〔大正十年四月、北村季晴より掛長村上直次郎へ提出〕

自大正九年一月
至大正十年三月　調査報告

菌八節

道行相合炬燵　調査完了

里の色絲　調査中

右ハ前田助教授ニ補助セリ

一中節

夕霞淺間嶽　蓄音機レコードニツキ調査

右ハ聯合調査ニ補助セリ

俚　謠

松前追分節　調査中

右ハ前田助教授補助セリ

俚　謠

相馬節　調査中

〔手書き〕

〔大正十年四月廿三日、補助北村季晴より校長村上直次郎へ提出〕

大正十年度～十二年度

報告書

私の擔當致して居る文書の方面に於ては前年度に引續いて主として邦樂年表の編成と、調査研究資料の蒐集とに力を致しました。その經過の大要は次の通りです。

一、邦樂年表編成の方面

義太夫年表の編成に從事致しましたが、前年度の方針を繼承して、

(イ)既に定稿として脱稿した正德末年迄の後を承けて、享保から元文迄の草稿について更に嚴密に訂正補修を加へて淸書の上、定稿とした事、

(ロ)寛保以後の全體に亘つての增補修正、

(ハ)寶曆年間刊行の丸本六十餘種を通讀してその梗概を作って年表の備考欄記入の材料を作成したことなどが主要な事業でした。

次に年表編成上必要な資料の足らざるものを搜索蒐集の爲に東京大學圖書館、帝國圖書館、早大圖書館、岩崎文庫、大倉集古館文庫等について隨時必要な圖書借覽を致し、又個人の藏書家を訪問してその藏書の借覽をして得る處も相應にありました。その中で殊に名古屋の平出順吉郎氏の藏書（故平出鏗次郎氏の遺書）中には未見の珍書が甚だ多かった、その中から特に五十餘部を借入れて研究し大いに新資料を得ました。又昨年十一月大阪朝日新聞社主催の近松巢林子遺品及參考書展覽會が三越吳服店で開催された時その掛員の好意によって其の出陳品中の澤山の操芝居番附を特に閲覽するの便を得、その結果從來年表中に缺けてゐたもの六十枚を寫し取る事が出來ました。是は享保から文化に亘る年間のもので、殊に寶曆前後のものが多い、年表編成事業としては實に貴重な材料を得た次第です。

二、資料蒐集の方面

調査資料蒐集上の方面に於て報告致し度いのは、謄寫事業で、本調査掛の調査研究資料として必要と認めて特に圖書館又は私人の藏書を借入れて謄寫せしめたものは次の通りです。

曇鸞大師御傳記　（原本帝國圖書館藏）

小栗判官　（原本帝國圖書館藏）

不動明王豐年護摩（同上）

女殺油地獄　（同上）

とゞいつ節根元集（原本東北大學藏）

賴朝濱出
翁　竹
南大門秋彼岸
今様かしは木
雁金文七
瀧口横笛
平安城都遷
惟高惟仁位諍
荏柄の平太
染殿后紀僧正戀ごろも
京わらんべ
王照君

（原本六合新三郎氏藏）

（原本早大圖書館藏）

（原本平出順吉郎氏藏）

（謄寫擔當者早川與甫氏）　〔手書き〕

〔大正十二年七月二日、嘱託黒木勘藏より掛長村上直次郎へ提出〕

報　告

雅樂ハ大正十年四月以降別紙ノ曲ニツキ調査致候間此段及御報告候也

壹越調

颯　踏　　入　破　　賀殿破
賀殿急　　迦陵頻破　　賀陵頻急
承和樂　　北庭樂　　蘭陵王
胡飲酒序　　胡飲酒破　　新羅陵王急
回盃樂　　十天樂　　菩薩破
酒胡子　　武德樂　　酒清司
壹團嬌

平調

五常樂急

黄鐘調

央宮樂　　桃李花　　平蠻樂
西王樂破　　蘇合（香）急　　青海破

盤涉調

蘇合香三帖　　蘇合香破　　萬秋樂破
宗明樂　　白　柱　　竹林樂
越天樂　　採桑老　　劍氣褌脱

太食調

武昌樂　　打球樂　　傾盃樂急
仙遊霞　　還城樂　　拔　頭
蘇芳菲　　輪鼓褌脱　　庶人三臺

其他笙ハ壹越調、雙調及ビ盤涉調ノ音取、品玄、入調、平調ノ音取、品玄、臨調子、五常樂序、太食調ノ音取、品玄、上調以外ノ管絃全曲ニツキ調査セリ。

〔手書き〕

〔大正十二年七月二日、弘田龍太郎より主事高野辰之へ提出〕

邦樂調査報告

大正十年四月ヨリ十二年六月マデ

薗八節

題名	着手	完了
里の色絲	前年度ヨリ繼承	大正十年五月十一日
鳥邊山	大正十年五月十八日	同　七月八日

箏曲

末の松	前年度ヨリ繼承	大正十年五月七日
住吉	大正十年五月十四日	大正十一年三月十四日
大和心	大正十一年三月十八日	同　五月二十七日
九段調	同　六月三日	同　七月八日
八段替手	大正十二年一月二十七日	同　四月二十八日
那須野	大正十一年九月三十日	未完

萩江節

短夜	大正十年九月二十九日	同　十月五日
松	同　十月十二日	同　十月二十六日
金屋丹前	同　十一月二日	同　十二月二十一日
深川八景	大正十一年三月一日	同　五月十日
髙尾	同　五月十七日	同　十二月六日
竹	同　十二月十三日	大正十二年五月十六日
梅	大正十二年五月二十三日	同　六月六日
夜半樂	同　六月十三日	同　六月二十七日

箏曲那須野ノ絃部始メヨリ第八頁ニ至ル三八〇餘小節ハ小生病氣缺席中囑託北村季晴氏ノ調査ニ係ルモノナリ。大正十一年十二月中邦樂教育調査會用トシテ箏曲薄霞、玉川、壽くらべ等ノ三絃ノ一部分ヲ調査上譜シテ之ヲ提供セリ。

〔手書き〕

〔大正十二年六月三十日、囑託前田久八より掛長村上直次郎へ提出〕

調査報告

自大正十年四月至大正十二年六月

薗八節

里の色絲　鳥邊山

萩江節

みじか夜　松　金屋丹前

深川八景　髙尾　竹

右前田囑託ノ調査ニ參與セリ

民謠

米山節　上州館林在麥打唄

磐城平盆踊唄（笛）　おいとこ節

相馬節　再調査　大正十一年九月廿一日

右蓄音器吹込「レコード」ヨリ調査

〔手書き〕

〔大正十二年六月三十日、補助梁田貞より掛長村上直次郎へ提出〕

邦樂調査報告

前年に引續き劇場音樂（合方）の調査に從事しました。即ち

一、前年の報告に認めた通り當時六郷（合）囑托から借入れた各座「合方つけ帳」につき、其內「時代もの」の代表として「忠臣藏」

「世話もの」の分として「鳴衝月白浪」及び「仕立御薩摩上布」のつけ帳を近藤囑托に就て遂項上譜研究した（以上、自大正十年四月、至同十一年十二月）但し六郷囑托が病氣で出勤出來なかつた爲、右の内鳴り物のつけ（笛太鼓、小鼓など）の調査が出來なかつたのは遺憾である

一、大正十二年より主事の希望により調査に一段落を付ける爲、既濟調査諸曲の目錄及索引を作るべく先づ之を五十音別に排記し二百餘曲の合方（名稱略）に就き、各曲が劇に於て用ゐられ〔る〕べき場面の範圍（例えば何曲は時代ものゝ、又は世話ものゝ如何なる場面、如何なる人物の如何なる氣分を現はすに用ゐらるゝか等）、知り得べき作曲者及其時代、何劇に初めて用ゐられしか等を一々調査した、蓋しやがて諸方面から之を類別して數種の索引を作らんとするのである、

一、次に箏曲の調査は前田囑托主として之に當り余亦之に參與して居たが本年二月からは前記の目錄索引の調製を急ぐ爲主事に謀り余は一時之に參與する事を中止して專ら劇場合方の調査に從事した

一、劇場合方の内鳴り物の部が六郷囑托病氣の爲調査出來ずに居る事は頗る遺憾な事である、諸鳴物を伴ふたる合方は謂はゞ邦樂のオ〔ー〕ケストラで之から鳴物を取り去つては曲によつて、其氣分を半減して仕舞ふのであるされば余は六郷囑托に代るべき人を得て此方面を調査し度く思つたのであるが種々の事情で果さなかつた。目下被調査者も全部で僅に二三人なのであるから何とか學校でもも少し骨おつていたゞき度いものである

一、六郷氏の「諸劇場つけ帳」は三百餘册ある。明治初年から近頃に至る迄の諸劇場の興行毎に、劇の進行に伴ふて奏せらるべき音曲を記錄したもので毎册同時に興行された三四の劇のつけが合せ記されて居る卽ち約一千餘の劇のつけで誠に珍しい蒐輯である、されば目下劇場で或る劇を上場せんとして、その音曲のつけの判明せぬ場合には右のつけ帳を六郷氏方へ借に來る有樣なのである然かも其記錄の方法は專門家の「おぼへ書き」の程度で、今の斯の道に明るい父老を喪へば後にはわからぬ物に成つて仕舞ふであらふ、之を今の内完全な樂譜に表はして置く事は目下の急務であらねばならぬ、そして之が完成したなら、それは將來の劇界及樂界の珍寶で又一面我か音樂の表現法を調べる上の一大參考と成るべきものである。目今一面に翻譯劇や「新しい芝居」が頻りに興行されて古來の劇が飽かれんとして居ると同時に他面一部の識者や一分の外人等には却て我邦の純古劇や舞踊が賞揚せられて居る今日、是等の古劇や舞踊と密接の關係ある音曲がわからなく成つて仕舞ふと云ふ事は殘念至極な事と思はれる。實にこのつけの調査だけでも國家が我が文藝の保護の上是非果さねばならぬものではあるまいか、そして之が完成は我が將來の音樂の方針を定むべき一大基礎の一つとも成るべきものと信ずるのである。

一、然し乍ら我が邦樂調査の現今の樣に僅に毎週一回一時間位ゐの仕事をして居るのでは、このつけの調査だけにしてからが何時果つべきとも思はれない、どうか當局は適當な方法を講じても

つと〳〵この事業の發展を計つてもらひ度いものである（西洋音樂は日本で騷がなくとも亡びる心配はありません又いくら騷いでも我邦で百尺竿頭一歩をも進め得るものとは思へません）

一、聞く所によれば文部省では教育音樂調査員を任命して邦樂に付て審査して居るさうだが、この會で我が邦樂調査の成績が擧らぬとて云々して居る者があるさうです。從來の樣に蚊の泪程の經費で前記の樣に少時間小人數の調査をするべく餘儀なくされて居て何で多太な成績が擧りませう見易い事ではありますまいか、寧ろ渠等は其成績に鑑みてモツト々々我が調査に金をも力をも入れ〔る〕べき事を當局に勸むべきではありますまいか、なほ委員の或者は箏曲の平調子をハ調にするとか、ト調にするとか云つて鬼の首でも取った樣に騷ぎ立てゝ居るとか聞きます、可笑しな話しです、之を西洋音樂の樂譜に照して考へても或曲がト調だからいけぬとかハ調だから不都合だとか云ふ事はありません「調」は何調へでも移せます（殊に聲樂は）我國の音樂教育は主として Movable Do の方法に依って居ますそして我か三絃や箏は調子の固定して居るものではありません、これから樂譜で邦樂を學ふ者は勿論一般移調法位ゐは知らねばなりません＝ハ調ト調、そんな事は末の末です何もお歴々の委員を待て今あげつらふべき問題とは思はれません　もつと〳〵急な問題が澤山ころがつて居ります

なほ又渠等は先づ邦樂の或ものを西洋音譜に表はして之を發行する事を急務として之を獻議したとか聞きます、成程邦樂を譜に上す事も必要な事です然し今之を發表して誰が之を讀み之を奏するのですか　邦樂を教育に應用するとしては先づ適當な教程（教科書）を編み又之に寄りて教授するに適すべき教員を養成する事が最大急務であらねばなりません、そして我か音樂學校が當初音樂傳習生などを置いた樣にして次に之を或生徒に實施して實際に試みた上漸次改善して行くべきだと思ひます　勿論當初の生徒は試驗兎と成る譯ですが之は是非もありますまい、そして一方邦樂調査を擴張して漸次に邦樂諸般の研究を進め　之を教授にも應用して行くべきだと思ひます這般の事に就ては多少の愚見もありますが報告書から餘り脫線しましたから此邊に止めます

〔手書き〕

〔大正十二年六月七日、北村季晴より掛長村上直次郎へ提出〕

大正十三年度

報　告

今學期ニ於ケル邦樂調査掛ハ別紙ノ如ク進渉致候間此段及御報告候也

雅　樂

數年ノ非常ナル研究ノ結果愈完成ノ域ニ達シ今學期ハ

迦陵頻急　壹越調

賀殿急　壹越調

ノ二曲ヲ完成淨書セリ。カクノ如クシテ完成淨書サレタルモノハ東儀、奥、多三氏ノ知レル所ヲ細大洩サズ記シ所謂祕傳ト稱セラル、奏法迄記シタリ。現在カヽル確實ナル曲譜ハ他ニ求メ得ザルト共ニ今後モ求メ得ザル事ヲ斷ジテ疑ハザルナリ今ニシテ此種ノ研究ヲ完

成シ置カザレバ樂曲ノ失ハル、コト言ヲ俟マズ。

來学期初メニハ

羅陵王　壹越調

菩薩破　壹越調

ヲ完成淨書シ來学期中ニハ壹越調ノ樂曲全部ヲ又來學期中ニハ既ニ調査サレタル全樂曲ヲ完成淨書サル、豫定ナリ。

富本節

左ノ樂曲ヲ歌絃共ニ再調セリ

新曲髙尾懺悔　御代榮益穂富種

奈須野（ママ）　家櫻幾齡三番叟

惠方土產　全盛操花車

松風行平徒髪戀曲者　春夜障子梅

之ニテ富本節ノ再調ヲ全部終了セリ。

此等ハイツレモモトノ調査ヲ本體トシテ疑問ノ點ヲノミ訂正セリ。

淨書ノ終リシハ

春夜障子梅　惠方土產

御代榮益穂富種

ノ三曲ナリ。

都一中節

現在再調中ニテ既ニ再調ノ終了セルハ

松の羽衣　名寄歳旦園生の松

傾城淺間嶽

ノ三曲ナリ。

〔手書き〕

〔大正十三年十二月二十四日、弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

報告

今迄ナシタ富本節調査ニ關シ別紙ノ通リ報告シマス

富本節ノ調査ニ就テ

富本節ノ調査ハ明治四十年十月邦樂調査掛ニ於ケル調査事業ガ開始サル、ト共ニ行ハレマシタ。即チ同年十月一日ニハ囑托吉野萬太郎（名見崎得壽齋）出勤シ　三宅延齡ガ『年朝嘉例壽』絃ヲ記譜シテ居リマス。之ガ實ニ邦樂調査事業開始ノ第一日デアリマシタ。其ノ後竹内平吉　本居長世モ協(力)シマシタガ、多クハ三宅延齡主トシテ調査シマシタ。サウシテ此調査ハ大正六年七月二日迄續キマシタガ、其ノ後吉野萬太郎ハ病氣ニカヽリ、終ニ同月三十一日ニ死去シマシタ。其ノ爲メ調査モ中絶シ、今日ニ及ンダノデアリマス。

明治四十年十月ヨリ大正六年七月迄ニ調査シタ曲ハ左ノ十九曲デアリマス。

年朝嘉例壽（長生）　其俤淺間嶽（あさま）

新曲髙尾懺悔　幾菊蝶初音道行（忠信）

夫婦酒替らぬ仲中（鞍馬獅子）　忠信物語り

長生のふき　新曲神樂獅子

御代榮益穂富種（豐の前）　奈須野（ママ）
家櫻幾齡三番叟　草枕露玉川　惠方土產
全盛操花車（木遣）　拙筆力七伊呂波（乙姫）
松風行平徒髪戀曲者　御代の秋
關寺小町　春夜障子梅（夕霧）

此ノ中既ニ淨書シテ報告シマシタ曲ハ左ノ九曲デアリマス。

第一回報告　草枕露玉川　拙筆力七伊呂波（乙姫）
第二回報告　幾菊蝶初音道行（忠信）
第三回報告　仝　右　忠信物語り
第四回報告　其俤淺間嶽（あさま）上
第五回報告　御代の秋
第六回報告　其俤淺間嶽（あさま）下
第七回報告　年朝嘉例壽（長生）
第八回報告　關寺小町

他ノ曲ノ中絃ノミ調査シマシタ左ノ二曲ハ未完トシテ暫ク此ノマヽニシテ置キマス

長生のふき
新曲神樂獅子

以上ノ十一曲ヲ除イタ他ノ曲ハ歌、絃共ニ調査シテアリマスカラ、未定稿デハアリマスガ、一先ヅ淨寫シテ置ク必要ガアリマスノデ原稿ヲ基礎トシテ名見崎タカ子ト私トデ再調査ヲ行ヒ、此ノ再調ハ大正十三年十月末ヨリ始メ、十二月ニ終リマシタ。之ニヨツテ今回淨寫シタ曲ハ左ノ七曲デアリマス。

曲目	調査期間	記譜者
御代榮益穂富種（豐の前）	自明治四十二年十一月廿日 至〃四十四年九月廿三日	三宅延齡 竹内平吉
奈須野（ママ）	自明治四十五年二月十日 至〃〃四月廿四日	同右
家櫻幾齡三番叟	自明治四十五年五月一日 至〃〃五月廿九日	同右
惠方土產	自明治四十五年六月十二日 至大正元年十月廿三日	三宅延齡
新曲高尾懺悔	自明治四十一年十一月二十八日 至〃四十三年十月廿五日	三宅延齡 竹内平吉

〔大正十四年三月二十□日、弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕〔手書き〕

大正十四年度

報　告

都一中節の再調及び淨寫に就ては別紙の通りに有之候間此段御報告申上候

再調の上淨寫ずみとなりしもの左の通りに有之候

天の網島　皐月前道行　松羽衣
丹波與作夢路駒　夕寄歳旦園生松　傾城淺間嶽
道行三度笠

以上七段

其の他現在淨寫中のもの及び未再調のもの有之候へども前者は近く完成の豫定に有之候又後者は家元病氣の爲め五月中旬にあらされは全部再調を終へ難きやう存せられ全部完了の上其の際は都一中節の

調査に關し全般に渉りて精しく御報告申上ぐべく候　〔手書き〕

〔大正十五年三月十六日、弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

報　告

雅樂調査に就ては別紙通り御報告致候

調査完成淨寫ずみのものは次の通りに候

音　取　各調子

賀殿急　壹越調

迦陵頻急　壹越調

壹圖(圖)嬌　壹越調

菩薩破　壹越調

其の他數十曲調査中又は淨寫中に有之　四月よりは完成及び淨寫の曲次第に加速度を以て增加する豫定に有之候　〔手書き〕

〔大正十五年三月二十三日、弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

大正十五年度

一中節調査成績報告書

明治四十年邦樂調査開始以來竹內平吉、本居長世、三宅延齡等ガコレニ從事シタルコト有之候ヘドモ主トシテ前田久八コレニ當リ、大正十二年末迄ニ同人ヨリ調査ヲ了シテ報告セルモノ次ノ十曲ニ有之候（當時掛長ニ宛テテ報告濟）

辰巳の四季　賴光山入　賴光衣洗

甲　子　廓の壽　夕霞淺間嶽

道成寺　御代の秋　信田妻

猩　々

當時同人ノ報告ニ漏レタルモノ一曲

お夏笠物狂

有之候間此段追加報告致候

次イデ大正十四年度ニ至リ弘田龍太郎從來調査未了ノ分ニ關シ都一中ニツキテ再調ノ上淨寫セシメテ大正十五年三月ヲ以テ報告致候ハ次ノ九曲ニ有之候

賤機帶　傾城淺間嶽　松の羽衣

皐月前道行　丹波興作夢路駒　梅川忠兵衛道行三度笠

名寄歲旦園生の松　天の網島　鉢の木

本年度ニ入リテ都一中病氣ノ爲メ再調査ノ進行ヲ圖リ難ク、ナホ將來整理スベキモノニ次ノ曲有之候間此段併セテ報告致候也

泰平船盡し　賴光童子對面の段　源平妹背鷄合　〔手書き〕

〔大正十五年四月三十日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

民謠調査報告書

大正十一年中蓄音機レコードヨリ調査致候民謠左記ノモノ今般淸書濟ニ相成候間　御報告申候也

別記

一　相馬節

二　おいとこ節

三　米山節

四　磐城平盆踊唄（笛）

以上　〔手書き〕

〔大正十五年四月三十日、嘱託梁田貞・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

雅樂調査成績報告書

雅樂調査ハ其記譜法ノ取調ベニ時日ヲ要シ候モ漸ク決定ヲ見、既ニ完成ノ上淨寫シタルモノ次ノ通リニ有之候

大正八年度
音頭（取）六調子

大正十四年度
壹越調　迦陵頻急
同　賀殿急
同　菩薩破

大正十五年一月以降七月迄
壹越調　壹團嬌
同　春鶯囀入破
同　胡飲酒破
同　蘭陵王
同　酒胡子

來月初旬迄ニ完成ノ上淨寫セラル、ハ次ノモノニ有之候
壹越調　春鶯囀颯踏
同　武德樂
同　北庭樂　〔手書き〕

〔大正十五年九月廿八日、高野辰之・弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

菅野一中節調査成績報告書

明治四十年邦樂調査開始以來故菅野序遊　本居長世　前田久八等ガコレニ從事シ　大正十二年末迄ニ前田久八ヨリ調査ヲ了シテ報告セルモノ次ノ八段ニ有之候（當時掛長ニ宛テテ報告濟）

泰平船盡し
三勝鷄卵酒
稽首國道行
江戸紫
金村屋おさん　二重帶名護屋結
屋伊八　自然居士
御代の秋
業平河内通

次イデ大正十五年ニ至リ、弘田龍太郎從來調査未了ノ分ニ關シ、淨瑠璃ノ部分ハ出來得ル限リ原稿ノマヽトシ　菅野たかニツキテ再調ノ上淨寫セシトシモノ次ノ十段ニ有之候（報告別紙）

八重霞浪華濱荻（かしく）上・新屋敷之段
神樂高砂
鉢の木
鵜飼石和川
安宅道行
松　襲
墨繪の島臺
尾波瀬の隱井
冲中川戀俤
松盡し

次ノ四段ハ現在傳ハラザルモノヽ如クニテ　弘田龍太郎專ラ前田久八ノ原稿ニヨリテ不明ノ點ヲ補ヒテ淨寫セシメ候（別紙報告）

八重霞浪華濱荻（かしく）下・墓所之段
常盤御前道行
助六道行
妹が宿

又次ノ一段ハ未完ニハ候ヘドモ本居長世ガ特ニ精細ニ調査セシモノニ候ヘバ　淨書ノ上併セテ御報告致候也（報告別紙）

高砂松之段　〔手書き〕

〔大正十五年十二月二十一日、高野辰之・弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

京唄調査成績報告書

邦樂調査開始以來三宅延齡主トシテ京唄ノ調査ニ從事シ同人ヨリ調査ヲ了シテ報告セルモノ次ノ十二曲有之候

（當時掛長ニ宛テ、報告濟）

十三鐘　千鳥の友　高砂
夕の雲　四ツの袖　あらはれ草
鳥邊山　柳がみ　ふところ
ゆかりの月　舞鶴　殘月替手

右ノ外三宅延齡淨寫シテ未ダ報告ヲ致サヾルモノ次ノ六曲有之候間別紙御報告ニ及ビ候

八段の替手　あづさ　融
本手琉球組　八重衣替手　くちきり　〔手書き〕

〔昭和二年一月、主事高野辰之・弘田龍太郎より掛長村上直次郎へ提出〕

雅樂調査報告

雅樂調査ハ弘田龍太郎主トシテ之ニ從事シ大正十五年十月以降昭和二年一月迄ニ次ノ六曲別紙ノ如ク完成淨寫濟ニ相成候間此段御報告ニ及ビ候也

壹越調　武德樂
仝　春鶯囀颯踏
仝　北庭樂
仝　新羅陵王急
仝　承和樂
仝　酒清司　〔手書き〕

〔昭和二年二月二十八日弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

荻江節調査成績報告

荻江節調査ハ大正十年ヨリ同十二年迄前田久八、梁田貞、荻江久之ニ從事シ調査ヲ了シ未ダ其ノ成績ヲ淨寫シテ報告致サヾルモノ次ノ一曲有之候

金屋丹前（樂譜別紙）

次イデ大正十五年十二月ニ至リ弘田龍太郎調査未了ノ分ニ關シ荻江久ニツキテ再調査ヲナシ、淨寫セシメタルモノ次ノ七曲有之候樂譜相添ヘ此段御報告ニ及ビ候也

短夜　高尾　深川八景
松　竹　梅
夜半樂　〔手書き〕

〔昭和二年三月十九日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

昭和二年度

新内節調査成報告書

大正元年十二月ヨリ大正五年ニ渡リ本居長世、三宅延齡、富士松加賀太夫、富士松宮古太夫等ガコレニ從事シ調査ヲ了シタルハ左ノ

四段ニ有之候

明烏夢泡雪（明烏）上、下　若木仇名草（蘭蝶）

累身賣の段　千日寺名殘鐘（三勝半七）

又調査未完ナルモノ次ノ一段有之候

膝栗毛赤坂竝木の段

ナホ本年度ニ至リ弘田龍太郎右調査濟ノ分ヲ淨寫セシメ候間別紙樂譜相添へ此段及御報告候也　〔手書き〕

〔昭和二年五月、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

報告書

菅野一中節ノ成績ニ關シ先般御報告申候後自然居士過古物語ニ續稿ヲ發見致シ候間卽チ『兄弟一度は』以下終リ迄ヲ前田久八調査ノ原稿ニヨリ菅野たか子弘田龍太郎再調査ノ上別紙ノ通リ御報告仕候也　〔手書き〕

〔昭和二年六月三日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

報告書

都一中節ノ成績ニ關シ先般御報告申候後本居長世、前田久八ガ「廓の壽」ヲ特ニ精細ニ調査セシ原稿ヲ發見致シ候間淨寫セシメ候上別紙ノ通リ御報告仕候也　〔手書き〕

〔六月二十一日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

薗八節調査成績報告書

薗八節調査ハ大正九年ヨリ同十三年ニ亘リ宮薗千春、前田久八、梁田貞之ニ從事シ前田久八淨寫シテ未ダ報告致サヾルモノ次ノ一曲有之候

里の色絲（植木や）

又原稿ノマヽナルモノ次ノ二曲有之候

道行相合巨燵（梅川）　鳥邊山

次イデ本年度ニ入リ右三曲ヲ弘田龍太郎、小林きんニ就キテ再調ヲナシ「道行相合巨燵」及ビ「鳥邊山」ヲ淨寫セシメ候

右寫譜相添へ此段及御報告候也　〔手書き〕

〔昭和二年十二月一日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

常磐津節調査成績報告書

常磐津節調査ハ明治四十二年ヨリ大正五年ニ亘リ先代常磐津文字太夫、本居長世、前田久八、之ニ從事シ既ニ調査ヲ了シテ報告ニ及ビ候モノ次ノ五段有之候

子寶三番叟　積戀雪關扉

戻駕色相肩

傳授の雲龍（「これぞといふすぐれし畫師もなきよしきけば」迄）

四天王大江山入　上　御代の秋

右ノ外前田久八淨寫シテ未ダ報告致サヾルモノ次ノ一段有之候間別紙樂譜相添へ及御報告候

四天王大江山入　下

次イデ昭和二年度ニ至リ、弘田龍太郎　原稿ニヨリ淨寫セ〔シ〕メタルモノ次ノ六段有之候間別紙樂譜相添へ此段及報告候也

鴛鴦容姿正夢　老松前彈
蜘蛛絲梓弦　心中浮名の鮫鞘
傳授の雲龍（「みづから女なりとも」ヨリ「おもてをむくべきやうぞなき」迄）
戀中車初音の旅（「いろね慕うて來りけり」迄）
追テ未完了ノモノ次ノ一段有之候
紅葉傘絲錦色木　〔手書き〕
〔昭和三年三月二十日、弘田龍太郎・主事高野辰之より掛長村上直次郎へ提出〕

〔清元節成績報告書〕(1)
四季三葉草
名寄の壽
再春松種蒔
次イデ大正十一年度ニ至リ北村季晴　本校ニ於テ特ニ清元延壽太夫ニ命ジテ吹込マシタル蓄音器蠟管ニヨリ調査シタルハ次ノモノニ有之　昭和三年度ニ至リ弘田龍太郎淨寫セシメ別紙樂譜相添ヘ御報告ニ及ビ候也
保名　「戀よ戀」より「狂ひてし」迄
保名　「心そぞろに」より「片思ひ」迄　〔手書き〕
〔昭和三年三月、弘田龍太郎・主事高野辰之提出〕

（1）報告書名および前文を欠く。

（三）議事録

邦楽調査掛の全体会議に関わる議事録は二冊のみ残る。表紙に「明治四拾一年十一月　邦樂調査掛議事錄　第一」とこれを継続する「明治四拾四年壱月　火曜日例會議事錄　第貳　邦樂調査掛」である。後者は不規則で記録も大正元年十月十五日で終っている。なお別に挿入されていた「會議錄」（大正三年三月十七日。仮綴二枚）もあわせて掲載する。

邦楽調査掛議事録

邦樂調査掛議事錄
〔明治四十一年〕十一月十日　（火）
午後二時開會
主事及永井、天沼、高野三調査員出席
議案　第一
歌舞伎年代記利用案
邦樂年表を作る必要上左の諸項を、歌舞伎年代記よりカードに收むることゝす。
一、淨瑠璃節其他の
㈠興行、年、月、日
㈡興行座
㈢外題、外題讀方、作者
㈣太夫、三絃、其他の囃子方
一、歌舞伎年代記より得らる可き樂曲諸流派大略左の如し。
㈠江戸長唄
（附）めりやす、唄淨瑠璃